第 18 講　功利主義

1　功利主義

①アダム＝スミス（1723 〜 90 年）→自由放任主義

A　人物

イギリスの経済学者・哲学者。スコットランドに生まれる。生涯独身のまま，母校であるグラスゴー大学の教授・学長などを務めた。富の源泉を各人の労働による生産力に求める「労働価値説」や，自由な利益追求が生産力を高め社会全体の富を増大させる「自由放任主義」を唱えた，**古典派経済学の祖**。主著『**国富論〔諸国民の富〕**』『**道徳感情論**』。

B　**市民社会**の発展

17 世紀，**世界初の市民革命**が起き，18 世紀後半には**世界初の産業革命が**起きた**イギリス**では，**市民社会が発展**した。そこでは**資本主義**経済が発達し，利益追求の競争が激しくなった。

※アダム＝スミスは，（一定のルールの下で）幸福を求める個人の自由活動を最大限認めることが大切であり，社会は愛情や親切心に頼らなくても十分成り立つ，と**楽観的な立場**をとった。

C　**（神の）「見えざる手」**

各人が自己利益を追求して完全な自由競争を行えば，経済活動が停滞することなく，むしろ**需要と供給（＝価格）が自動調整**され，社会全体の富が増大する，と考えた。

D　**自由放任主義〔レッセ＝フェール〕**

個人が自己利益を自由に追求することで社会全体が豊かになるのだから，国家は市場経済に介入するような役割を担うべきではなく，個人が獲得した財産を保護する役割を担えば十分であるとした（＝**小さな政府**）。

※これは，成立したばかりの**資本主義を擁護する立場**であった。

E　**共感**

行為の正当性を計る手段として，第三者（＝**公平〔中立〕な観察者**）の**共感**を得られるかどうか，を重視した。

※利己的な感情を動機とする行為でも共感は得られる，として，個人の利益追求は全体的な調和を実現できると説き，この考えが「見えざる手」の根拠となった。

〈 ***Note*** 〉

②ベンサム（1748 ～ 1832 年）→量的功利主義

ベンサムは，アダム＝スミスの唱える自由放任主義〔レッセ＝フェール〕が，イギリスの市民社会に調和をもたらすとまでは楽観しなかった。「個人の幸福追求と社会全体の幸福促進とをいかに調和させるか」という問いに対し，彼が提案したのが**功利主義**である。

※功利主義とは，**行動の善悪の基準として「その行為が快楽と幸福をもたらすかどうか（＝効用）」に重きを置く考え方**で，個人を国家や社会より優先させて位置づける。

A　人物

イギリスの哲学者・法学者。ロンドンで弁護士の家に生まれる。選挙権を市民に広げる選挙法改正のために努力したことでも有名。生涯独身のまま，84 歳で死去。主著『道徳および立法の諸原理序説』。

※隣家のミル父子と長く親交を結んだ。

B　**快楽計算**

ベンサムは，**快楽と苦痛こそが人間を支配する**と考えた。そして，**個人の感じる快楽の量を合算して社会全体の幸福の総量が測定できる**とし，そのためには誰もが平等に一人として数えられなくてはならない，と，選挙法改正（＝普通選挙・平等選挙）を主張した。

※「各人は等しく一人として数えられ，誰もそれ以上に数えられてはならない」

※快楽計算のために，快楽の強さ・長さ・確実さなどを基準に数量化しようとした。たとえば,「とても楽しいがすぐ飽きてしまう玩具」より「そこそこ楽しくて長く遊べる玩具」のほうが大きな快楽を与えてくれる，とする。

C　**量的功利主義**

個人の幸福追求が社会の最大幸福につながる，とする「**最大多数の最大幸福**」の原理に基づき，ある制度や政策が，いかに人々に正しい行為を促（うなが）し，どれほど社会を幸福に導くために有効か，を判定しようとした。

※特権階級による利益独占の問題性を指摘しつつ，民主主義的な諸制度の確立を訴えた。

D　**４つの制裁〔サンクション〕**

公益を損なう行為をした者に対しては，その行為によって得た利益を上回る不利益を与えるような**制裁**を加えなければならない，とした。

1　**自然的制裁**……不摂生で病気になる，不勉強で落第するなど。

2　**法律的制裁**……刑罰など。➞特にこの効果を最重視。

3　**道徳的制裁**……社会的非難など。

4　**宗教的制裁**……神罰への怖れなど。

※ベンサムは，社会的責務を果たす目的は幸福増大にあるのだから，**道徳的に重視すべきは行為の「動機」より「結果」**だとして，善意志を重視し動機主義を唱えるカントを批判した。

③ミル（1806～73年）→質的功利主義

A　人物

イギリスの哲学者・経済学者。ロンドンで，功利主義者ジェームズ＝ミルの子として生まれ，学校に通わず父の英才教育を受け，さらに隣家のベンサムの影響を強く受ける。20歳頃から，感情や人間性を軽視する父やベンサムの思想に限界を感じ出し，のち公然と批判。晩年には下院議員となり，**女性の参政権を訴える**など，民主的改革に努力した。主著『**功利主義**』『**自由論**』。

B　**質的功利主義**

快楽には精神的なものもあり，単純に量でその多少を判定することはできない，として，ベンサムの快楽計算・量的功利主義を修正する立場をとった。

※**「満足な豚であるよりは，不満足な人間であるほうがよく，満足した愚か者であるよりは，不満足なソクラテスであるほうがよい」**と述べ，**精神的快楽**のほうが肉体的・感覚的快楽より高次（こうじ）の快楽であり，それを追及することが幸福に不可欠な要素であると説いた。

※人間は生来，他人を思いやり，社会の幸福のために献身することに喜びを感じる。それも快楽に含めれば，「最大多数の最大幸福」を追求することは，道徳的な社会の実現につながっていくと考えた。ベンサムとの違いは，自己中心的な感情を乗り越え，他者の幸福を願う**良心の働きを重視**した点にある。

C　**内的な制裁**

人間にはそもそも利他的感情があるので，法律的〔政治的〕制裁だけでなく，**良心**から義務を感じ，それを放棄すれば罪悪感を覚えるといった心理的な苦痛（＝**内的な制裁**）をも避けようとする，と考えた。

※人間は，そうしておのずと「最大多数の最大幸福」のためになる行動をとる，とした。

D　**危害原則〔他者危害の原則〕**

個人の行為に対して社会的に制約がなされることは，他者に危害が及ぶ際に限られるべきである，とした。

E　イエスの黄金律の影響

ミルは，「おのれの欲するところを人に施（ほどこ）し，おのれのごとく隣人を愛せよ」というイエスの言葉の中に，道徳の理想を見いだした。

※**行為の正・不正の基準を，その行為が自分を含めた関係者に最大の幸福をもたらすかどうか，という点に求めた。**

〈 ***Note*** 〉

２　実証主義と社会進化論→社会有機体説

19 世紀に登場した**社会有機体説**とは，社会を生物的な有機体とみなし，それとの類似により社会を説明する学説。社会は個人を超越する実在であり，個人は全体的な社会の一器官にすぎない，とする。

※社会は実在する独立した個人の集合体にすぎない，とする社会名目説と対立。

①コント（1798 ～ 1857 年）→実証主義

A　人物

フランスの哲学者で，**社会学の創始者**。社会主義者の先駆サン＝シモンの秘書となり影響を受ける。主著『実証哲学講義』。

B　**実証主義**

超経験的なものを排し，経験的な観察・実験によって現象の内にある法則を探究する（＝社会科学）。近代科学を肯定し，それを道徳や社会にまで拡大しようとした（＝社会学）。

※神や本質的存在〔実在〕のような，経験・観察・実験することのできない絶対的・本質的な真理は追求しない。

C　三段階の法則→知識の発展の三段階

1　**神学的段階**

事実の発生要因として，神などの架空の存在を想定する段階。

※フェティシズム〔物神崇拝〕・一神教・多神教など。

2　**形而上学的**（けいじじょうがく）**〔哲学的〕段階**

事実の背後に，その起源や目的となる抽象的な本質的存在を思索する段階。

3　**実証的段階**

事実の背後に，神や本質的存在のような何かを仮定することなく，事実関係からのみ恒常的な法則を見いだしていく段階。

※事実に還元できない命題は一切認めず，自然法則に基づき，将来存在するであろうものを予見する。このような学問のあり方（＝社会科学や自然科学）こそ，人類の進歩の最高段階であるとした。

②スペンサー（1820 〜 1903 年）→社会進化論

イギリスの哲学者・社会学者。適者生存・自然淘汰を説くダーウィンの生物進化論を，道徳や社会など全ての領域に適用する**社会進化論**を唱えた。その影響は，近代化を始めた明治時代の日本にも広がった。

※人間の道徳的素質は先祖から獲得され伝えられたもので，利己的感情から利他的感情へと進化する，という進化論的な倫理説を説いた。

※社会有機体説の立場から，人間社会は強制的な軍事型社会から自発的な産業型社会へと進化する，と説いた。

第18講　倫理確認テスト

1　世界で最初に市民革命と産業革命を達成した国とは？

①　スペイン　②　オランダ　③　イギリス　④　フランス

2　イギリス古典派経済学の祖と呼ばれる学者とは？

①　アダム＝スミス　②　リカード　③　リスト　④　ケインズ

3　2が初期に著した，利己的な感情を動機とする行為でも第三者〔公平な観察者〕の共感を得られるとして，個人の利益追求は全体的な調和を実現できると説いた著書とは？

①　『人間悟性論』　②　『道徳感情論』

③　『国富論〔諸国民の富〕』　④　『道徳および立法の諸原理序説』

4　個人の感じる快楽の量を合算し社会全体の幸福の総量を測定する快楽計算ができると説き，そのためには誰もが平等に一人として数えられなくてはならないと主張した人とは？

①　ベーコン　②　ベンサム　③　ジェームズ＝ミル　④　スペンサー

5　4の説いた「4つの制裁〔サンクション〕」のうち，彼が最も重視したものとは？

①　自然的制裁　②　法律的〔政治的〕制裁

③　道徳的制裁　④　宗教的制裁

6　『功利主義』『自由論』を著し，質的功利主義を説いたイギリス人とは？

①　ロック　②　ヒューム

③　ダーウィン　④　ジョン＝ステュワート＝ミル

7　6が道徳の理想を見いだした，イエスの言葉を何というか？

①　荒野の誘惑　②　黄金律

③　よきサマリア人　④　放蕩息子の帰還

8　実証主義を唱え，社会学の祖となったコントはどの国の思想家であったか？

①　イタリア　②　イギリス　③　フランス　④　アメリカ

9　コントの「知識の発展の三段階」としてふさわしくないものを一つ選べ。

①　神学的段階　②　形而上学的〔哲学的〕段階

③　実証的段階　④　社会主義的段階

10　ダーウィンらの「生物進化論」を発展させ「社会進化論」を唱えた学者とは？

①　ヘーゲル　②　スペンサー　③　トマス＝クーン　④　マルクス

解答

1	③	2	①	3	②	4	②	5	②
6	④	7	②	8	③	9	④	10	②